

製造現場における問題解決手順

基礎コース

製造現場では、品質問題はじめ種々の問題に日々直面しています。それらの原因を追及してすばやく対策する活動は、“QCD（品質・コスト・納期）”の維持、向上に欠かせません。本研修では、“問題”をとらえる“気づき”から“真因”に直撃する対策の導入までの手順を演習も取り入れて分かりやすく解説します。実務を担っておられる方々やリーダーの問題解決能力に磨きをかける内容となっています。

プログラム

対象 ものづくり現場のリーダー
(中核人材)の皆様
経験年数 5~10年程度

定員 30名

時間 9:30~16:30 6時間
(9:00から受付)

日程 平成28年 6月 9日(木)

会場 岐阜工業高等専門学校
図書館 多目的ホール
あるいは ビデオルーム

研修後のフォローアップ

研修後、ご希望により、逆スクーリング制度（フォローアップ）を実施します。

講師が受講者の現場を訪問し、直接指導を行います。（有料）

1. 「ものづくり現場」の実状

- 1 “ものづくり”を取り巻く環境の変化
- 2 ものづくり現場は“問題山積”
- 3 問題を見ているも診ていない
- 4 潜んでいる問題にも気づく

2. 問題解決への取り組み方

- 1 問題を解決する心構え
- 2 問題のとらえ方 5つの切り口
- 3 “STPDサイクル”の特徴
- 4 リーダと管理者は役割を分かって行動

3. 問題の“見える化”が成否の分かれ道

- 1 見える化ツール“QC7つ道具”
- 2 データの効果的な集め方と読み方
- 3 鳥の目で重要問題を見える化【演習】パレート図作成
- 4 虫の目で原因を探す 【演習】特性要因図作成

4. 実効果のある「対策」の導き方

- 1 “改善アイデア出し”の4つのポイント
- 2 “対策の実行と確認”の押さえどころ
- 3 決めた事を忘れない2つの行動
- 4 良い手順を続けるための留意点

講師紹介

高津 正吉

大手工作機械メーカーにて数値制御用モータとその駆動装置の開発・設計、生産技術など多彩な業務を経験。その後アメリカ工場に赴任、数値制御工作機械用電装品の現地化設計と製造、工場立上げに7年間携わり、工場マネジメントに関わる豊富な実務経験を持つ。また、講座では実践的な内容を分かりやすく簡潔に解説する事で好評を得ている。